

運転手不足などで相次ぐ減便

2024問題・運転手不足を理由にした相次ぐバス減便が地域の公共交通にも大きく影響しています。このほど滋賀自治体問題研究所が「滋賀県の地域交通に関する調査」をまとめられ、15日に開催された「日本共産党滋賀県地方議員団の学習会」で報告がありました。

地域のニーズ・要求 地域づくりと一体で

甲賀市でも4月からコミュニティバスが運転手不足を理由に大幅に減便になり、市民から「いつも利用していたバスがなくなり、病院に間に合わない」との改善を求める声が寄せられています。

学習会では、「地域では交通問題が切実で深刻になってきている」として、通院、買い物などの日常交通の確保、公共交通を利用できない方々への交通確保、通学路などの地域の交通安全の確保など「住民の暮らしと安全の確保」を命を守る交通が切実な課題になってい

ます。これに対して、国土交通省の施策は、公共交通事業者への支援など「公共交通の活性化」であり、地域が抱える課題との齟齬があるため、「国には地域の

交通問題を解決する交通政策が求められる」として、「生活交通の衰退による地域コミュニティの欠落」等の問題が指摘されました。

交通は人間社会をささえる基本的な人権（交通権）です。医療、教育と同じように、誰でも移動できることが公共の福祉、交通が保障されないと他の権利が保障されません。

大切な移動手段である地域公共交通をどのように守っていくのか、地域の公共交通網をどのように配置するのが課題です。

採算重視を公共交通に当てはめたために、委託先変更により、バスの運転手の賃金が300万円から150万円に半減した事例など、様々な課題も報告され、共有しました。



15日開かれた日本共産党滋賀県地方議員団合宿交流会に、甲賀市から山岡・岡田・西山の3名も参加しました。

地域公共交通確立は「交通権」の保障

公立甲賀病院組合議会

西山実議員が一般質問

3月27日に公立甲賀病院組合議会が開催され西山実議員が一般質問を行いました。

西山議員は、12月以降、甲賀市内において新型コロナウイルスに加え、インフルエンザ感染が広がっていることから、12月、1月、2月の発熱外来の検査状況と感染状況、患者の特徴について質問しました。

組合議会事務局長より、新型コロナウイルスは、12月763検体で57人が感染、1月679検体で128人、2月520検体で88人、インフルエンザは12月661検体216人、1月677検体175人、2月525検体127人と減少傾向にあること、コロナ入院患者も前年同月より大きく低下しているとの報告を受けました。

次に看護師確保による病床再開の課題について、「2024年10月に休床病床の残り23床の再開を目指す。その時には400名の看護師が必要」とお聞きしていることから、看護師の充足状況並びに令和5年度の退職者数、離職状況について質問しました。

組合議会事務局長より、4月1日現在の看護師見通しは、応援看護師、派遣看護師を含めて391人になる見込みであること、令和5年度の離職人数・離職率とも前年度を上回っており、技術力不足による自立困難や体調不良が増えているとの報告がありました。今まで以上に離職防止対策に力を入れることが必要です。



4月に開園した「レイモンド甲賀こども園」 厚生文教常任委員会で通園送迎状況を確認

厚生文教常任委員会は11日早朝、今年4月から開園した「レイモンド甲賀こども園」の送迎状況を視察し、送迎の際「危険」と思われる県道上馬杉野尻線から施設への出入り状況について確認しました。

山岡光広議員は、「徒歩での登園は、ごく僅かで、ほとんどの園児が自家用車での送迎となる。県道上馬杉野尻線から、園舎に入るが、左折する場合、少し右に膨らんで

から、ハンドルを切らなければならず、対抗車があれば危ないこと、右折して入るには、その時通行する車が重なったら大変」と指摘しました。

こども園では、安全確保のために、開園当初は要員を配置していましたが、今後はそれぞれ判断で、園に入らなければなりません。看板を設置するとか、縁石を広げるとか、速度規制をするとか、安全対策が必要で

日本共産党

甲賀市議員団ニュース

2024年 4月 21日 第492号



山岡 光広

甲南町森尻 16
Tel 86-2985
Fax 86-0415



岡田 重美

土山町南土山甲 78-15
Tel 66-0696
Fax 66-0696



西山 実

水口町本丸 3-28
Tel 62-3044
Fax 62-3044